# 2026年3月【横路議員】一般質問　文字起こし

【桂藤和夫議長】 次の質問に移ります。横路政之議員。

**【横路政之議員】 それでは私は、施政方針における本市のまちづくりについてお伺いいたします。施政方針において本市の中長期的な方針として５つのリーディングプロジェクトが示されました。このプロジェクトは冒頭、他の自治体に対して比較優位に立つための戦略であると位置づけられました。近隣市というと、いかに差別化を図り競争に競り勝つかというメッセージを発信されていると感じております。人口が減り続ける現状を考えると、市民一人ひとりがその人らしく穏やかで満足して生きている状態、これをウェルビーイングと言います。競いぐ方向性を持ちながら、市民ファーストに軸足を向けるべきと考えますか。見解を伺います。**

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。リーディングプロジェクト、ピースフルは平和で安心なまちづくりをさらに充実させ、未来につながる希望あふれるまちをつくるという思いのもと、本市の持つ強みや特徴を生かし、限られた資源を効果的に配分し、他の自治体に対して比較優位性を得るための戦略的な事業でございます。プロジェクトのうち、変化への適応戦略である庄原版コンパクトプラスネットワークの推進は、人口減少や社会情勢の変化に適応した持続可能なまちづくりを図るものでございます。そうした安心な暮らしの基盤を確立する中で、食料とエネルギー自給の推進など、未来への成長戦略に位置づける３つのプロジェクトにより、本市の成長分野の創出を目指しつつ、物価高や災害に強く、経済的に豊かで彩りある市民生活の実現につながると認識いたしております。各プロジェクトの施策を推進するにあたり、丁寧な市民ニーズの把握や客観的データの活用に努め、取り組みの成果を着実に行い、市民の皆様のウェルビーイングを高めてまいります。それが本市の比較優位を自ずと強めていく、こうした好循環を生み出してまいりたいと考えております。

**【横路政之議員】 今市長が答弁されたことは、先週の金曜日の一般質問、代表質問でも述べられている内容でございます。施政方針の中でやはり見てみますと、競争という言葉が出てきた時に私、あれと思ったんですよ。というのが、具体的には言いませんけども、前に他と競争するのではなく実態に即した利用形態にするという理由で、事業縮小された事業がございました。そういった中で私も頭の中で、よそとは競争しないんだと、今ある施設の中で身の丈に合ったものでやっていくんだという思いの中で、やっぱりそうだなと。無理に競争して身の丈以上のものを作っても最終的にはその時には皆さん喜ばれますけども、やはり長期的に見るとそういったものが色々なところで足かせになり、市民の皆様のウェルビーイングですか、満足度というものが衰退していくのではないかという理由で市長の思いに、そうだなという風に思ったわけです。こういった中で今回、施政方針の中で、今からのまちづくりは他市と競争して優位に立つ、それが今後のまちづくりについては重要なんだということを言われましたんで、私はどうなんかなというような素朴な思いの中で今回のこの質問をさせていただいてるんです。色々比較優位が市民の皆様の満足度を増していくというのは理解できますけども、過度の競争と言うんですかね。他とどうしても比較してうちは勝っていくんだと、そういう思いの中で出発するのと、いやいや、市民の皆様のそういった満足度が第一なんだと、そういった思いの中で出発するというのは最終的には大きな開きが出てくるのではないかという風に私は思うんです。これは根本のところの本当に重要な部分だと思いますんで、再度市長の口の方から市長の言葉の中で、しっかりと、考えを言って頂ければいいと思うんですけど、どうでしょうか。**

【八谷市長】 ご質問にお答えをいたします。議員先ほどから競争をという言葉をおっしゃっておりますけれども、答弁にも申し上げました通り比較優位性をという風に考えております。直接争うというよりも皆さんに選んでいただける場所を作っていきたい。おっしゃる通り、そのためにはまず今いる市民皆さんが、ウェルビーイングという言葉でも結構ですし、幸福、住んでいるこの庄原市で暮らすことが幸せであるという風に感じていただける、そのための優位性をより一層、我が町には何があり、どういうところが優位であるか、他と比べた時にですね、どういう部分が庄原市というところが優れているかというようなものをより一層形作っていきたいという風には考えておりますけども、決して競争をただ無駄に競争したいというような思いはありませんの

で、ただ我々が持っているところをしっかりと表に出してそこを磨き上げていきたいという風に考えております。

**【横路政之議員】 言葉尻をとらえるんではないんですけども、施政方針の中で競争力を高めるとかそういった言葉を公式の場で言われたんでね、そういった思いがしたわけです。ということは市長はやはり基本は市民の皆様の満足と幸福度、これを第１に考えるんだという考えでそういう理解でよろしいんでしょうかね。**

【八谷市長】 はい、おっしゃる通りでございます。満足度を第１に考えていくのが一番選んでいただけるんではなかろうかという風に考えております。

**【横路政之議員】 ではそういうのを理解させていただきました。そういった中での他市との優位性という風に発展していくんだという根本の部分ですね、は確認させていただきました。じゃあそれを元に２項目の質問をしたいと思います。**

---

**食料とエネルギー自給の推進について**

**【横路政之議員】 食料とエネルギー自給の推進において、バイオマス発電、小水力発電の実現の可能性を探っていくとされているが、市長の思いを伺います。**

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。食料とエネルギー自給の推進につきましては、本市の強みである農業や豊富な水、森林資源を生かし、生きていく上で不可欠な食料とエネルギーの地産地消を推進する仕組みの構築を図るものでございます。これらにより食料及びエネルギーにかかる基礎的な支出を抑制し選択的支出を増やすことで、市民の皆様の経済的豊かさと生き抜く力の向上につなげてまいります。本市は県内有数の農産物の生産地で、さらに豊富な水、森林資源にも恵まれているため、バイオマス発電や小水力発電はこうした資源を生かした再生可能エネルギー活用の有効な手段の１つであると考えております。令和８年度は本市エネルギー産出資源の可能性調査やエネルギー自給に向けた仕組みづくり、また市場に出回らない農産物を低価格でシェアする仕組みづくりなどについての調査研究を計画しております。生きていくために不可欠な食料とエネルギーの地産地消を実現することにより、本市に住む人のみならず本市に関わる様々な人にも本市の魅力を感じ、将来の可能性を育み展望を描けるまちづくりを進めてまいります。

**【横路政之議員】 市長、施政方針の中ではっきりとバイオマス発電、小水力発電という表明と言いますか、言葉を使われましてはっきりと言われました。具体的に市長はこのバイオマス発電、小水力発電、イメージを持っとってですかね。ただようわからんけど調査して今から作っていくいうような考えなんか。やっぱり表明された以上は、市長の思いの中でこういった格好のものを作りたいんだというのがあるはずなんですよね。それを教えてもらえればと思うんですけど。**

【環境政策課長】 ご質問にお答えします。今議員が言われた、具体的にどういうものを作るか、どういうものを考えているかということですけども、端的にですね、建物を建てるとか、ご存知の通りバイオマス発電、森林等の木材を利用する、水力発電については色んな河川の水力を利用するとかダムを使うとか色んな方法はありますけども、端的に施設を建てるとかそういう思いではなくてですね、とにかくこの市民がですね、安全に安心に豊かに暮らしてる方策はないかという取り組みをですね、今から研究して、具体的に建物を建てるわけではなくて、その方法を今から研究をしていきたいということを考えております。

**【横路政之議員】 ということは、仮にはっきりしたバイオマス発電、小水力発電のイメージはないんだけども、こういったものをやりたいというところから出発されたんでしょうかね。きちっと施政方針の中でこの文言が出てくる以上は、そこの部分を市長は全然ぼやっとしたものをなんとなくやりたいんだという思いなのか、いやいや、バイオマスがいっぱいあるんでバイオマス発電、そして水も豊富にあるんで小水力発電、こういったものをきちっとしたイメージを持って表明されたんかどうか、そこなんですよね。私の言うこと分かりませんか。頭からこうやろうてんで分からんのかな。でも市長が言う以上はきちっとしたイメージがあるはずでしょ。バイオマス発電ってたらこういう、じゃないですか。直近で言えば真庭がしとるようなことをやりた**

**いんだとか、小水力発電が私もちょっとイメージわかんのですよ。どこでどうにしてこうにして、そういうのがあるからこういうことを言われたんだと思うんで、そこを聞きたいんですよ。**

【企画振興部長】 ご質問にお答えいたします。この度のリーディングプロジェクトの、この食料とエネルギーのプロジェクトにつきましては、先ほど来お話になっておりますように、庄原市の資源を活用する中で、選択的支出を下げながら、市民の皆さんに幸せな暮らしを実現するとともに、有事の際にも生き抜く力をというところが出発点でございます。中で、やはり市内にある資源として、木質バイオマスの活用、また水資源の活用という中で、発電をして、発電をするものを市民の人に提供するという形にはできないかというところでございますが、発電をしても市民の皆さんに提供をするということになりますと、そうした仕組みづくりをしていかなくてはならない。そうしたことがありまして、金曜日の吉川議員のご質問にもありましたように、国内でもそうした電力の供給をしている事例もございますので、そうした事例もしっかり調査をしながら、庄原市としてどのような取り組みができるのかというところを、これから研究していきたいという風に考えております。そうした事例、例えばバイオマス発電でありましたら、先ほど言われたような岡山で行われておられるような事例もございますし、小水力発電ですと、市内でも行われている事例もございますので、そうした事例をしっかり調査をする、また市内でどれぐらいの発電ができるのかと、でそれがちゃんと採算ベースに乗るのかどうなのかというところもですね、しっかり調査をして、今後は判断をしていきたいという風に思っております。

**【横路政之議員】 なんかよう分からんのんです私はね。だっけ市長にだけ聞きよるんですよ、市長から言ってください。そういう思いがあったんでしょう。バイオマス発電やりたいんだと、小水力発電もやりたいんだと、だけどこういうイメージで必ずそう思うんだと。そうせんと説得力ないじゃないですか。よう分からんけど調査してって、なんとなくそういったものをやりたいんだと。それは気持ちが分かる必要なんですけども、そういったものを言われる以上はきちっとした市長の構想が、こういうものをやりたいんだいうことをあるのを教えてくださいって言われるんですよ。市長そういう思いないんですか。**

【企画振興部長】 ご質問にお答えいたします。先ほどご答弁申し上げておりますように、そうした構想と言いますか、中でこの度、選択的支出を下げていくという取り組みができないかということで、まずは調査に着手していこうという風に考えております。金曜日の吉川議員のご質問にもありましたように、実際事業を実施していく場合には、過去の失敗についてという言及もございましたけれども、そうした失敗の事例を庄原市は抱えているわけでございますので、慎重な取り組みが必要であろうという風に考えておりますので、他の自治体の事例などもしっかり調査をしながら、事業実施をしてまいりたいという風に考えております。市長、我々もそういう構想を持ちながらですね、この取り組み進めていきたいということで、スタートしていきたいという風に提案をしとるところでございます。

**【横路政之議員】 市長、私がしつこく言うのはね、あれなんですよ。私市議になって初めてになりました。21年目ですか。で、23年してこのバイオマス関連事業が始まったんですよ。で、しょっぱなの市長、当時の市長の表明です。今と全く一緒なんですよ。山がいっぱいある、豊富な資源がある、それを利用して庄原市を良くしたいんじゃと。そういう構想を出されたんです。しょっぱなに。で、計画はそん時の議員は全賛成したん。それはいいことだと。で、賛成して事業が始まって、ご存知のように大変なことになったんですよね。それが20年以上、20年ですか。しょっぱな、最初から考えると20年ですよ。色々な裁判等々があって、振り返りますと有名になったんですよ。庄原市がすごくバイオマス関連事業で初めて日本でそういったの失敗したというので負のイメージの失敗有名だったんですよ。だからそういうのがあって、私も当初からそういったものに関わってきました。それを関わっている議員は今数人です。当時のこの空気感と言いますかね、を知ってるのが。途中で次の議員さんが来られてそれに関わって来られたんですけども、そういった経験と言いますかね、を経てきているものですから、これに関しては私は絶対こういうものを反対じゃとは言いません。市長の構想が大成功してうまく生き出せば、それは今度はなぜ日本から注目されるでしょう。当然でいい方向で評判になるでしょう。そしたら当然市民の皆さんもこの豊かですかね、気持ち的にもまた経済的にもなるでしょう。それは大**

**賛成なんですけども、そういった経験があるので、はっきりとしたそういったものが、もう市長の中にこれだっていうものがない、なんとなく調査してばっとした中でできることをすると、いいんですけども、となるとまたこういったことを二度としてはならないという思いの中でやかましく言いよるんです。分かってもらえますかね。そういったものも報告書があります、出ました、詳細にわたっての。そういったものも多分目を通されていると思います。そういった中でこういった考えを表明されたんだと思うんですけども。再度聞きます。どうもありますか。**

【木村洋副市長】 お答えいたします。お答えいたします。先日の吉川議員のご質問に対してもご答弁申し上げましたけれども、庄原市の木質バイオマス関連事業検証委員会の報告が 25 年の 3 月に出てきております。この中身についてはもうご答弁申し上げた通りですけれども、指摘をされましたことは、リスクマネジメントの欠如でありますとか、チェック体制の不備というようなところを、厳しく指摘を受けておりまして、それに対しては我々もこれもご答弁申し上げました通り内部でチェックの体制を整えて、そういうことが二度と起こらないように今取り組んでおるところでございます。従いまして、バイオマス発電あるいは小水力発電、バイオマス発電でしたけども、これに関しての可能性を否定されたわけではなくて、あくまでもそれをやる過程においてのチェックであり、リスクマネジメントであり、こういうところがダメだったというところは真摯に受け止めてやってまいりたいと考えております。その上で、繰り返しの答弁になりますけれども、我々はやはり庄原市の非常に大きな財産というか特徴として、広大な森林とそれでバイオマスの賦存でありますとか、あるいは小水力発電の可能性、これどこまでできるのかどれぐらいの発電を売るのかっていうところありますけれども、小水力発電で申しますと、水の段差があるところだったらどこでもできるというようなことがございます。従いまして我々急峻な土地の中に立地してる中で河川もあり、それからため池もあり、様々な水を活用できるところもあるので、そういったところをどれだけ我々が活用できるのかというところをしっかり調べていく必要があると思ってます。というのも、しっかりした調査がない中で物事を進めてしまうと、例えば先ほど部長が答弁しましたように、十分な採算性も確保できずにやってしまうとかっていうなこともあるかもしれませんので、まずはそこをしっかり調査をするということがしっかりした事業のためには必要だと考えております。非常に厳しいご指摘としてですね、まだまだ調査ばっかりやるのかというようなことがあると思うんですけれども、大きな成果をあるいは失敗を繰り返さないためにはかな、やっぱり調査であり分析が必要であるということも我々がこれまで経験した中で肝に銘じたことだろうという風に思います。従いましてそういう過程をしっかり踏みながらで、これも答弁させていただきましたが、その過程をしっかり皆様と共有し、情報共有していく中で適宜ご判断をいただきながら進めていくということも非常に大事だろうという風に思っております。今のようなことで進めてまいりたいと思っておりますし、我々にとっては非常に大きな可能性があることでございますので、まずはそこのところの出発を切らせていただきたいというところでご理解をいただきたいと思います。

**【横路政之議員】 副市長の方から熱く語っていただきました。安心しました。前回はこれが報告書の通りですよ。全くこうそこら辺がずさんだったので深みにはまっていったというところがあったのは確かです。そういった思いでしっかりと検証して徹底的な調査をしてこれでいけるというのを示すという風に今答弁されたんでそれは信じたいと思います。そしてじゃあそれに関連して最後の質問に行きます。**

---

**リーディングプロジェクトの業務委託と市民意見の聴取について**

**【横路政之議員】 5 つのリーディングプロジェクトでは、構想の策定、調査、計画策定、ビジョン策定などを業務委託されることになっているが、徹底的な市民意見の聴取の上での策定等が必要と考えますが、市長の見解をお伺いいたします。**

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。令和 8 年度におけるピースフルプロジェクトの取り組みにつきましては、専門性を要する調査研究や計画策定を中心に外部の知見を十分に生かした業務委託等の活用を予定しております。その過程においては必要に応じて住民、関係団体等の皆様と丁寧に議論するための場づくりを行

い、プロジェクトの目的や進捗状況に応じてワークショップの開催やアンケート調査など最適な方法で市民意見を聴取することが必要であると考えております。例えば地域の暮らしに密接に関わる論点が多数ある庄原版コンパクトプラスネットワークの推進については、地域ごとの課題を把握し持続可能な行政サービスを維持するために、市民、地域団体、関係事業者の皆様と対話を重ね定期的に論点を整理し、合意形成へと進めていくプロセスが重要です。各プロジェクトの検討につきましては透明性と参加機会を確保する仕組みを取り入れ、幅広い市民意見の聴取について積極的に取り組んでまいります。

**【横路政之議員】 おっしゃる通りです。今の時期と言いますか、時期は本当に市政運営、まちづくりの転換期だと思います。前回もシュリンクと言うか国縮むということも言わしてもらいました。やっぱりこういったことの鍵は徹底的なやっぱり市民意見の聴取だと思っております。ただ今まではどう言うんですか、なかなかそこの部分がですね、熱が入らなかったと言いますかね、団体等の代表の方の意見を聞いてこれが全体の意見だなという風に判断されていた傾向があるなという風に思っているんです。今からはやっぱりこのまちづくりを考えた時に、こう人口どんどん減る中でやっぱり今まで以上にこのそういった意見を吸い上げる仕組みというものを考えていただきたいと思うんですよ。施政方針の中でも今までの慣例にとらわれないやり方という風なことも言われました。まさしくそこだと思うんですよね。そうやって市民の皆様、それは全て100%同じ意見には当然ならんわけですけども、それの意見の集める方法もしっかり、私らもアイデアも提案させていただきますけども、執行者の皆さんは実務をされているわけですから、その実務をする上でアンケートを何千、配布してそん中の何パーセントで大体こうなんだというやり方は従来通りのやり方ですよ。だから本当に今からのまちづくり市長大変だと思いますよ。それが抜けてしまうとやっぱり最初言ったウェルビーイング、満足というのは抜けていくわけですよね。少しそこ、だからそういった方策をとにかく重要視してやっていただきたいという風に思ってるんです。もう1つ言わせてもらえれば、ここにも業務委託と書きました。今までも随分計画づくりには業務委託をかけておられました。私いつも思いよったんです。その方がどういったこう意見、先ほど言いました市民の意見の吸い上げ、当然執行者とのすり合わせの中で、いやいやお宅はそう言われるけどここはこういう市民の意見なんだというの、すり合わせをされていたと思うんですけども、業者の人がどういったこのそういった意見の集約もされていたというのかが全然分からんかった。ただできて計画ができました、業者何百万かけて業者にお願いして計画はすっごいいいものができるんですよね。ただ果たして市民の意見どんだけこうどういうプロセスでこの計画の中へ入り込んでいったんかというのが今まで全然、私もずっと長く議員してますけどもあまり聞いたことがないんだと。こういったプロセスで、色んな意見を聞いてこういう計画を作り上げたんだというところが全然こう分からん。計画できたんだな、バーっと見てパッと見ただけですよね。そういうのが感じるんで、先ほど言いましたように今からのまちづくりは特にそこら辺が大事なんだと思うんですけども、どうでしょうか。私の言うこと間違ってますかね。**

【企画課長】 はい、ご質問にお答えをいたします。業務委託のそうした透明性のところのご質問という風に理解をいたしておりますが、業務委託は基本的には専門的な知見をですね、補完をして計画等を策定していくというものが、議員が今おっしゃっているところはその部分だろうという風に思いますけれども、基本的には最終的に責任を負うのは当然、市、業務委託の発注者でありまして、その作業の工程においては、先ほど議員が言われたように業者が示したデータであるとかそうしたものを市の方がしっかり内部の中で様々な協議をかけて調整をして最終的に取りまとめてきたというところがこれまでの事態であります。そうした姿がですね、なかなか外部にご理解をいただけてないというところにつきましては、我々も反省をしてそうしたところは見える化と言いますか、全て一律にということにはなると思いますが、業務の種類をしてはそうした対応もしていかないといけないかなという風に思っております。合わせましてその意見聴取の部分につきましても、今回の第3期の長期総合計画におきましては新たに市民ワークショップの手法も取り入れております。それ以外にもですね、様々やるべ、やれることはあろうかという風に思います。例えばインターネットを使ったもう少し幅広い意見の聴取であるとか、そうしたところも議会の方からもご意見ご提案をいただいておりますので、時代に沿

った形でまた市民の皆さん全てをですね、網羅できる形が一番いいと思いますが、研究はですね、色々重ねていきたいという風に思っております。

**【横路政之議員】 大いに期待をしておりますので、このプロジェクト第１成功、皆さんが市民の皆様がやっぱり他の市と違うなと一体いただけるような成果が出るように私たちも協力したいと思いますので、以上で終わります。**

【桂藤和夫議長】 以上で横路政之の質問を終わります。この際暫時休憩いたします。再開は午前 11 時 20 分といたします。